



永手

傘松道詠集

~4
1143



門
利
號
1143
卷



筆松道跡序

年查彙祀之道跡也門以著席

抄錄行卷者不少而三亦頗多

余久痛之洗事於考儻而文

字幾乎全在古言吟咏落
九下隨風生珠玉憶無祖之
上言隻字亦如盤珠領寶而
不易授於今之世也是友壽梓

希之同志者有人終但詠
一者以諧道味則八筆法哉
報畫亦以介于此哉嗚呼人
也鮮者

延享三年八月朔吉日

蓮子為之吉祥林永福禪菴

沙門函山瑞方殊題



傘松祖師自贊真影

觀面出身。瞎馱頂顛。橫行天下。了

作馬牛。霹靂大虛。了超人境。雖喚

你作村僧。真箇帝鄉正命



筆松祖師道詠

寛元三年九月二十日
 初巻
 の一尺をうしり捨てし時

此月其の紫乃うしり捨てし
 又は人説くことのまじりなき
 寛治元年相州總念寺イニ
 了俊明尊道山宗禪師の詠

ちりて歌詠十首

教外別傳

何ぞ波の波もえよせぬさうさ
かきも舟屋に乃さなまはる

石立文字

いふに—と此言の紫のおもれを
筆に法波さめさうさ如

正法眼藏

波と引凡もはるるぬ葉ステをさる

月を我杖さ乃さくりなりな

涅槃妙心

いふも多我好る字乃花なれを

さもかりしるさ—春うれ

本末面目

まは花爰のときん秋を月
を毫もえ下次一明なり

即心即佛

おしきやかとぬほくすいぬ

を波りたりいぬい、那

應無取住而住其心

ををれおくもかへ法をえ下

さねもなはけいしなり

父母所生身所證大覺位

乃稱入深山乃真のほくろみと

一寂住別一寂なりこれ

盡十方界真實人體

世中へほくしれ人やるらん

かこりもえくぬたえのを

霊雲見拈花

去凡にゆらりひより拈花乃花
枝葉よのそれうこくひもき

鏡清雨滴

竹葉うふささこんたささかき
をのゆたふりまるとおのみまき
あはばくう年よまひまひ

永友たうらんかこけひそあは

牛過窓櫺

世中をまよふうゆぬ牛の尾北
引ぬこもゆるんそくそとせ

爰申説爰

な末^{トス}を心これゆ乃はくも爰
おゆひぬぬ、爰法とけ

十二時中不空過

三首

くるまはるに十あまうを人ぞる
 うさこひしとれをよそまき
 誰とてしや孰の跡を娘りぬを
 法のたうれ人せすくまき
 人志せし免てし心はせ申の
 多山カウ残れあはれのゆふられ

坐禅

守るよも思ふれをくも小山田の
 心つらなうねカシ信たなり
 頂イタキノカサキ影の葉やばらふらん
 眉に明しれさくくの糸
 溜りるま心の水よそむ月を
 波もくけて是とろたれ

げんえはなまは花井なま
之世の佛よりなまらるや

禮拜

をまるとんぬるやの志は
をのうほふ身成かくしなり

佛教

あらしやせ七此佛乃れ言は

まよふし六乃をを成なり

嬌しく老親如の御法よあふひ

切けても外乃道をぬまえや

誦法華經 五首

ねもすうし強りよなは法乃そ

みるけ強みきとろろや

漢の言ヒキ中キく行積とえくは

をくけ程をさくさく法をけ
け程乃白成得進そ世中一此
ふんじふも法成さくハ
若此を漢乃心者ヒキとさくく
家奴加半年居のさくや漢と
に乃馬三つ此車にのさく人
實此乃成いさくさく悔一

車屋雜詠

さくさくぬり教乃物の行すさく
乃此此をさく人さくさくたさく
さあくとふ夏のをさく此初まは
く廣瀬就田乃さくさくさく
ま此後さくさくさくさくさく
まより先にさくさくさくさく

おろかな心ひよりのりも忠を
六乃五とや人の好むらん
草此唐よりてさあてもまよひら
南で親か年居伸あされむ
しほき家にも尾よとてあまそ
くまもられぬとくくくく
家唐ハ城の志くや戸をくより

海と雲も情のくくく
およみ紫くくくくく
夕下もくくくくく
友をれくくくくく
くくくくくくく
梓らまの嵐くくく
岩も尾にも花白くく

あー引乃山を此尾のせきとせ
やうらなうとてくくトくさ
れん志し昔あさしや甲あさし
あられをうけよ麻乃神ま
梓アツサろそふと進はつるくよ此
引とく免はくおしとや
流イタツラにこそ月かをねをあ神や

乃成かもしむ時とよくた
奈の尾夏乃し免此らもか
すくさしと神乃かろるる
をとて人にえとてさ此た
あしとあま此むよの
いのちらるう佛といひて人
かむるうのくはるる

心をなやませし 然も洞なり
月よりくさくさ 然もはらへるや
おかしなく 雪は降りて谷のふ
まよふにまうと 雪くさく
六乃道をも追はるよと かつは
いふ父より 我母を
糸の男に 垣ぬにまき 糸より

古跡より 糸を 糸を
大空に 糸乃月 糸なる 糸なる
糸なる 糸なる 糸なる 糸なる
糸なる 糸なる 糸なる 糸なる
糸なる 糸なる 糸なる 糸なる
糸なる 糸なる 糸なる 糸なる

心のをれを乃先くふひの月影
光とくまくとまほろけ
夜影紫を乃白雪見し
おろハ悔しを先てたり
越前路よりけよをまじし
時本郷山と云ふ
草花美し首途せり乃の本乃目山

雲に映りしを
世に映りしを

世に映りしを

朝日竹葉紫の影のいとまに
いとまからけり世の如風
世中を何よむとくん水も此
そしあつる影にやま月影

連長又年中秋

向と見んとおろしむ一町の好くはし
今も昔も月も行くはれやハす

道詠終

向有好事者新出濟洞道歌一冊中載道元和尚
伊呂波歌者蓋實詠也後人不辨更加蛇足匪但
輕弄古德且欺瞞後生爲系孫者可不辨而止哉
是故附語告人具眼須必點頭焉

